

検査のパレット

今回は EB ウイルス（Epstein-Barr virus : EBV）の検査についてお話しさせていただきます。

EBV は唾液腺や口腔粘膜上皮で増殖し、潜伏期間は 2～7 週間とされています。不顕性感染が多く、初感染の一部に伝染性単核球症（IM）や急性肝炎を発症させ、ときに慢性活動性 EBV 感染症をおこします。日本人は乳幼児期までに感染し、成人の 90%以上が抗体を持っています。

●『EBV 特異抗体』について

EB ウイルス抗体は VCA（外殻抗原）、EA-DR（早期抗原）および EBNA（核内抗体）の 3 種類の抗原に対する抗体が存在します。VCA と EA-DR は EB ウイルスが溶解感染を起こしたとき、EBNA は潜伏感染したときに発現します。EB ウイルスの初感染では VCA IgM 抗体が出現し、IM の急性期に認められ、比較的早期（1～2 ヶ月）に低下、消失する抗体です。VCA IgG 抗体は既往感染で陽性となり、再活性化により異常高値となります。EA-DR 抗体は EBV 感染症の指標となり、VCA IgM 抗体より高率に検出されます。EBNA 抗体は、初感染の回復期から陽性になり持続的に検出されます。

よって、伝染性単核症の診断では、VCA-IgM 抗体と EBNA 抗体または、VCA-IgG 抗体のペア血清と EBNA 抗体を検査します。再活性化した EBNA ウイルスが慢性的に活動する慢性活動性 EBV 感染症では、VCA-IgG 抗体や EA-DR - IgG 抗体を検査し、血液中のウイルス量（保険未収載）を調べます。

EB ウイルス関連疾患の診断には、ウイルス抗体検査を組み合わせを行い、その結果から感染時期の推定を行うのが一般的ですが保険請求上は 1 項目しか算定できません。

●EB ウイルス関連疾患と抗体検査との関連

検査項目名		VCA IgG	VCA IgA	VCA IgM	EA-DR - IgG	EA-DR - IgA	EBNA
未感染		—	—	—	+ / —	—	—
EBV 既感染健常者		+	—	—	—	—	+
EBV 初感染 (IM)	急性期	++	—	+	++	—	—
	回復期	+	—	—	+	—	+ / —
EBV 再活性の疑い		++	—	+ / —	+	—	+
慢性活動性 EBV 感染症		+++	+++	+ / —	+++	+ / —	+ / —
バーキットリンパ腫		++	+ / —	+ / —	+ / —	+ / —	+ / —
上咽頭癌		+++	+	—	+++	+	+
上記以外の EBV 感染疑い		+	—	+	+	—	+

今回は、EB ウイルスについてお話しさせていただきました。ご質問があれば、検査室へご連絡ください。